

3-6 過去6ヶ月で性行為を行った男性の数を以下の中から選んでください（ここでの「性的な関係」は挿入行為に限りません）。

- ① 0人
- ② 1人
- ③ 2人
- ④ 3人～10人
- ⑤ 11人～50人
- ⑥ 51人以上

3-7 あなたはハッテン場をこの6ヶ月間にどれぐらいの頻度で利用しましたか？

- ① これまで一度も行ったことがない
- ② 過去6ヶ月行っていない
- ③ 週に1回以上
- ④ 月に1～3回
- ⑤ 2～3ヶ月に1回
- ⑥ それ以下

3-8 次にセックスをするとき、あなたはコンドームを使用すると思いますか？

- ① 使用しないと思う
- ② たぶん使用しないと思う
- ③ どちらともいえない
- ④ たぶん使用すると思う
- ⑤ 使用すると思う
- ⑥ 絶対使用すると思う

3-9 続いて過去のコンドーム使用についておききします。過去6ヶ月で、自分が最もあてはまるものについて4段階でお答えください。該当しない場合には、「5 そのような状況がなかった」を選択してください。

	付き合っている相手とのセックスにおいて	必ず使う	たいてい使う	あまり使わない	全く使わない	そのような状況がなかった
1	フェラチオをする（自分がなめる）場合	1	2	3	4	5
2	フェラチオをされる（相手がなめる）場合	1	2	3	4	5
3	アナルセックスで、ペニスを相手に入れる場合	1	2	3	4	5
4	アナルセックスで、相手からペニスを入れられる場合	1	2	3	4	5

次のページへおすすみください

10	自分にとって大切な人には自分のことをわかってほしいと思う	1	2	3	4	5
----	------------------------------	---	---	---	---	---

この質問紙に答えて感じたことなどご自由にお書きください。

<コメント>

このコメントを研究報告書に匿名にて引用してもよろしいでしょうか？

- ① 引用してもよい ② 引用は拒否します

質問は以上です。ご協力まことにありがとうございました

分担研究報告書
テレビドラマに描写される性の保健行動メッセージの分析
分担研究者
東 優子（ノートルダム清心女子大学）

研究要旨 若者の性の保健行動に与えるマスメディアの影響について考察すべく、本研究では1997～2001年に放送された若者が主人公である現代劇の連続ドラマ合計25本を材料として採取した（昨年度からの継続研究）。独立した2人が視聴しながら、「ジェンダー」と「セクシュアリティ」に関する場面とその内容について、主としてフリコート方式のコーディング用紙に記録（一部自由記述）していくという方法により、性描写の種類と頻度、登場人物（×台詞 役名のあるものに限る）の属性、行為の主體性、行為についての意、その他性やジェンダーに関する情報についての自由記述を収集した。

その結果、性に関する情報 行為の描写頻度に注目した場合、性に関連する描写（会話を含む）頻度を100%とした場合、セックスに関する描写が30%、キス21%、抱擁11%、その他の身体接触が14%、性風俗などが5%、コンドームや避妊が1%、HIV/STIsは0.3%、妊娠 中絶 出産などが7%、性犯罪に絡むものが2%であった。このことから、性の健康管理 保健行動に関する描写が極端に少ないことが明らかになった。さらに、いわゆる「ヘンリーマン」を初めとして、登場人物2人以上が行った性行動にのみ注目した場合、セックス12%、キス36%、抱擁23%、その他の身体接触29%であるか、こうした行為を主導したジェンダーに注目すると、セックス（男性31%、女性7%）、キス（男性36%、女性27%）、抱擁（男性42%、女性33%）、その他の身体接触（男性47%、女性34%）であった。

分析対象となったドラマにおいては、男女ともに性行動に対して積極的な存在として描写される傾向がみられるが、性行為を主導するのは男性が多く、また相互同意を欠く行為や性的強要は男性によるものが多い傾向がみられた。保健行動が阻害されやすい背景的要因としては、①言語的コミュニケーションに関するロールモデルの欠如、②他者依存的「結果オーライ」の展開、③ロマンチックラブ至上主義における「愛のためなら命も捨てる」的態度などが考えられる。現在、メディアを通して若者が曝されている情報の偏りが性行動と保健行動のギャップを固定化することを防ぐためにも、ロマンチックラブと保健行動が競合しない、コンドーム使用の肯定的イメージを伝える映像モデルの開発が必要とされる。

A 研究の背景と目的

マスメディアが人間の保健行動に及ぼす影響については、これまでに様々な角度から指摘がされている。批判的な立場からは、例えば最近の調査研究においても、映画やドラマに登場する俳優の喫煙行動が若者の喫煙行動の動機付けに繋がることへの懸念から、映像を規制する必要性が議論されている（Sargent et al, 2001, 坂口, 2001）。別の立場からは、教育や医療、公衆衛生などのサービス分野でもソーシャルマーケティングの手法が導入されると共に、マスメディアによる情報提供

の必要性がますます重視されるようになっていく。

人間の生活習慣や保健行動が改善されるには、「知識の受容」「態度の変容」「行動の変容」の3段階を経るといわれ、一般に大衆に広く情報を流布することのできるマスメディアの機能は、もっぱら第1段階である「知識の受容」に作用するものとして期待されてきた。

例えば、国内で実施された若者を対象とする性行動調査において、性に関わる意識や行動に与える影響・情報源として「友人」に次いで「テレビ ラジオ」などのメディアが多く挙げられている（日本性教育協会, 1999,

東京都幼稚園・小 中 高 性教育研究会, 1999)。そして、若者におけるテレビ専有率の上昇と共に、その影響が増大傾向にあるとこれらの報告書は指摘する。

あるいは、NGOの一つである Population Communications International (PCI) では、映像ではないが、ラジオでのソープオペラ（ドラマ）を制作し、それを使った様々なキャンペーンを各国で展開し、その成果について報告を行なっている。例えば、シンハブエで、男性の家族計画を促進するラジオドラマ放送したところ、避妊手段の実践が4%、コンドームの使用が5%上昇し、ドラマを聴いた男性のコンドーム使用率が62%になったのに対して、ドラマを聴かなかった男性では51%であったという (Plotrow et al, 1992)。同様に、タンザニアでも男性聴者においてコンドーム使用率の上昇がみられたと報告されている (Vaughan et al, 2000)。

マスメディアが人間の行動変容に与える直接的影響については科学的検証が未だ不十分であるが、マスメディアには適切な行動や望ましい行動のモデルを提示し、あるいは議論を喚起し、世論の風潮を形成したり、社会規範を変化させていく力がある。こうした問題意識を背景に、60～70年代には、男女平等を促進する世界的な動きの中でマスメディアが描く女性像の問題点を明らかにする実証的研究が盛んに行われるようになった。日本のマスメディアについては、男女の性役割分業を固定的に描き出す構造、既存の価値観を強化する内容が指摘されてきた。

本研究は、「映像が描き出す世界は、時代や社会の直接的・間接的反映であると同時に、行動モデルや判断基準としての影響力をもつ」という点に注目し、性の保健行動に与えるマスメディアの影響を考察すべく、「他のメディアと比べて比較にならないほど巨大な視聴者が存在している」(岩男, 2000) テレ

ヒトラマを材料として選んだ。従来、日本のテレビドラマについては、描かれる内容リアルでないことよりも、内容が多様でないこと(=ステレオタイプ化された性役割の描かれ方)が問題であるとされ、こうしたドラマを視聴する女性たちは、単なる娯楽ではなく、生き方の参考にする傾向がみられるという指摘がなされている(村松, 1998a, 1998b)。若者をターゲットとして高い視聴者を得ているテレビドラマに描かれるジェンダーやセクシュアリティを分析し、若者の性の保健行動に与える影響を考察していきたい。

×昨年度からの継続研究

B. 研究・調査方法

材料 1997～2001年に放送された若者層をターゲットにした現代劇の連続ドラマから、「恋愛」「若者」「性」がテーマに含まれるものについて、

- 1) 視聴率
- 2) 話題性(放送賞受賞、若者の性が重要なテーマになっている、社会的な話題となったなど)
- 3) 入手可能性

以上を基準として考慮し、各年5本(計25本)の番組を採取した。表1「分析対象番組一覧」に示されているとおり、材料として使用したドラマの放送回数11～13回で、平均視聴率(ヒデオリサーチ社の世帯視聴率データ・関東地区)は20.8%であった。今回採取したドラマの視聴率(ヒデオリサーチ社の世帯視聴率データ・関東地区)の中には、30%代もみられるが、これは関東地域だけで430万世帯、全国ネットに換算すると1300万世帯が視聴していることを意味する。

方法 独立した2人が視聴しながら、主としてプリコード方式のコーディング用紙に記録、一部については自由記述していくと

いう形式をとった（コーディング用紙については巻末参照）。具体的には、分析項目に該当するシーンが登場すると、そこでビデオを止め、行為の種類、男女どちらが行為を主導したかといった質問項目に回答していく。

分析項目は、以下のとおりであった。

- 1) シーンの種類（A 行為の描写、B 会話、C その他静止画面など）
- 2) 性描写の種類（A の場合 セックス、キス、抱擁、その他の身体接触、B や C の場合 セックス・キス・抱擁・

その他の身体接触、性風俗・コンドーム／避妊手段、HIV/AIDS やその他性感染症、妊娠、中絶、出産、性犯罪、その他）

- 3) 登場人物（×台詞・役名のあるものに限る）の属性
- 4) 登場人物の関係性
- 5) 行為の主体性
- 6) 行為についての同意
- 7) その他についての自由記述

表1 分析対象番組一覧

放映年	ドラマタイトル (放送回数)	最高視聴率	平均視聴率	備考
1997	フアンフェーション (11)	32.5	30.65	フジテレビ (CX) 脚本 浅野妙子 尾崎千也
1997	ひとつ屋根の下2 (12)	34.1	26.67	フジテレビ (CX) 脚本 野島伸司
1997	ヒーブボーイズ (12)	26.5	23.7	フジテレビ (CX) 脚本 岡田恵和
1997	ハーゲンロート (11)	28.3	21.1	フジテレビ (CX) 脚本 龍居由佳里
1997	恋のバカンス (10)	22	18.6	日本テレビ (NTV) 脚本 興水泰弘
1998	G I O (12)	35.7	28.33	フジテレビ (KTV) 原作 藤沢とおる 脚本 遊川和彦 者良幸
1998	神様 もう少しだけ (12)	28.3	22.53	フジテレビ (CX) 脚本 浅野妙子
1998	DAIS (12)	23.7	19.45	フジテレビ (CX) 脚本 大石静
1998	ブラザーズ (12)	24.3	17.93	フジテレビ (CX) 脚本 橋部敏子 金子ありさ
1998	ハノヒーマニア (12)	20.8	16.86	フジテレビ (CX) 脚本 楠本ひろみ 梅田みか
1999	魔女の条件 (11)	29.5	21.55	東京放送 (TBS) 脚本 遊川和彦
1999	オの世界 (11)	24.4	18.89	フジテレビ (CX) 脚本 野沢尚
1999	ハーファクトラブ! (12)	18.9	16.99	フジテレビ (CX) 脚本 浅野妙子
1999	遇中婚 (13)	18.3	16.03	東京放送 (TBS) 原作 脚本 内館牧子
1999	toHeart 恋して死にたい (12)	17.7	15.02	東京放送 (TBS) 脚本 小松江里子
2000	ビューティフルライフ (11)	41.3	31.86	東京放送 (TBS) 脚本 北川悦吏子
2000	やまとなてしこ (11)	34.2	26.12	フジテレビ (CX) 脚本 中園ミホ 相沢友子
2000	オヤン。 (11)	28	24.18	東京放送 (TBS) 脚本 遊川和彦
2000	伝説の教師 (11)	26.1	18.97	日本テレビ (NTV) 原案 松本人志 脚本 石原武龍 吉田智子 福田千津子 後藤法子
2000	お見合い結婚 (11)	20	16.94	フジテレビ (CX) 脚本 吉田 紀子
2001	ラブストーリー (11)	24.3	20.82	東京放送 (TBS) 脚本 北川悦吏子
2001	ラブレオリューション (12)	20.3	17.33	フジテレビ (CX) 脚本 藤本有紀
2001	恋かしたい恋かしたい恋かしたい (11)	21.9	17.31	東京放送 (TBS) 脚本 遊川和彦
2001	ス！ロハリー オンサ ノートケーキ (10)	18.4	17.28	東京放送 (TBS) 脚本 野島伸司
2001	できちゃった結婚 (11)	21.8	15.73	フジテレビ (CX) 脚本 吉田紀子 山田珠美

視聴率は Video Research Ltd. (関東地区) 調べ

性描写の種類（セックス、キス、抱擁、その他の身体接触）については、例えば「ベッ

トシーン」において4つのカテゴリーすべてが該当する場合があるが、本研究ではセック

ス>キス>抱擁>その他の身体接触の順に優先順位を設けて分類している。

なお、コーディング用紙には、秒数を記入する項目も含まれていたが、例えば「キスシーン」に該当する場面について、どこからどこまでが「キスシーン」という判断の違いが調査者間で大きかったため、最終的には分析項目から排除した。

また、性行動については、台詞・役名のある登場人物によるものだけに限ったため、例えば背景的に映る通行人同士のキスなどはここに含まれていない。さらに付け加えるならば、分析対象となったのはドラマの本編のみであり、タイトルバックや次回放送の予告などとして描写された関連シーンは一切含まれていない。

集計方法 2つのコーディング結果を以下の手続きにより、1つにまとめた。

- 1) プリコート項目 独立した調査者2名の一致率は、91%。不一致をみた項目については、分担研究者の判断を採用。
- 2) 自由記述項目 独立した調査者2名の一致・不一致に関係なく、記録された内容を参照の上、分類。

C 結果と考察

1)性描写の種類別にみた出現頻度

25本のドラマに登場した性に関する描写の頻度をカウントし、全体に占める各カテゴリーの割合を算出した(表2)。

表2 性描写の種類別にみた出現頻度

	セックス	キス	抱擁	その他身体接触	性風俗など	コンドーム/避妊手段	HIV/AIDSやその他性感染症	妊娠中絶出産など	性犯罪	その他
登場人物による性行動	107	310	201	247						
会話	450	81	8	5	49	18	6	123	20	123
その他	9	12		6	38	6		9	9	56

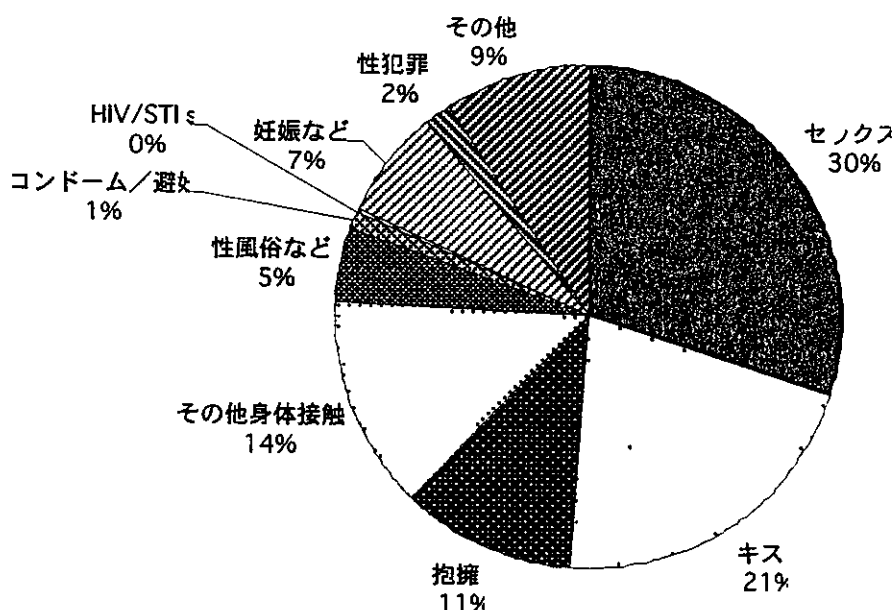


図1 性描写の種類別にみた出現頻度

登場人物による性行動、会話、静止画面などその他をすべて合わせた結果は図1に示さ

れたとおりであり、セックスに関する描写が30%、キス21%、抱擁11%、その他の身体

接触か 14%、性風俗などか 5%、コンドームや避妊か 1%、HIV/AIDS やその他性感染症は 0.3%、妊娠・中絶 出産などか 7%、性犯罪に絡むものか 2%であった。

2) 行為を主導したジェンダー

台詞あるいは役名のある登場人物に注目し、性に関する具体的な行為が描写されたシーンにおいて、男女どちらか行為を主導したかについて調べた結果を示したものが表3および図2である。なお、今回の調査で材料となったドラマには同性間行為や3人以上による行為が登場しなかったため、男女2名による行為が分析対象となっている。

各行為についての男女の割合はセックス（男性 31%、女性 7%）、キス（男性 36%、女性 27%）、抱擁（男性 42%、女性 33%）、その他の身体接触（男性 47%、女性 34%）であった。この結果について、男性主導型である傾向が指摘できるか、数値の上ではそれ

ほど顕著ではない。しかし例えばセックス・シーンの場合、「判別不能」が 52%と最も多いのが特徴となっていることについては、具体的な説明的描写は省略され、性行為の事実がある、あるいはあったであろうことが示唆されるのみである場合が多いためである。ロマンティックな雰囲気か重視されるためだろうか。

表3 行為を主導したジェンダー

	セックス	キス	抱擁	その他身体接触
男性	33	111	83	115
女性	8	84	66	83
どちらともなく	10	92	41	30
判別不能	56	23	11	19
合計	107	310	201	247

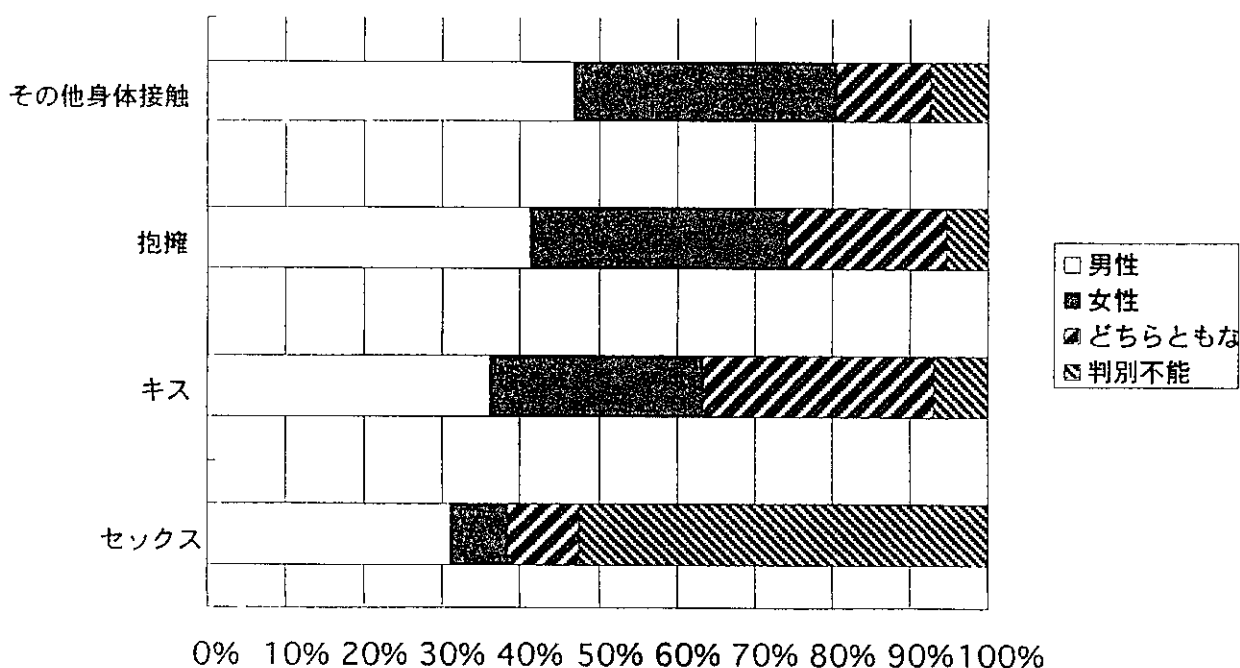


図2 行為を主導したジェンダー

3) 行為についての相互同意

セックス・シーンについて具体的な説明が省略される傾向にあることは、その行為について両者間で相互同意がみられたかどうかを視聴者にはわかりにくいということにもなる。

それぞれの行為についての描写で登場人物間の相互同意かみられるか否かを調べるべく、本研究では「相互同意があった」—「相互同意があったか否かは不明瞭だが、相手が嫌悪感を示さなかった」—「相互同意があったか否かは不明瞭だが、相手が嫌悪感を示した」

—「相互同意かない（性的強要）」の4段階にコート化した。ただし、相互同意があったか否かの判断は、登場人物による明確な言語化がなされることがほとんどないため、結局は文脈を考慮した調査者の主観的印象に頼らざるを得ない。相互同意がないとコートされた場合に、登場人が嫌悪感を示した否かについての判断も同様である。その結果を示したものが図3である。

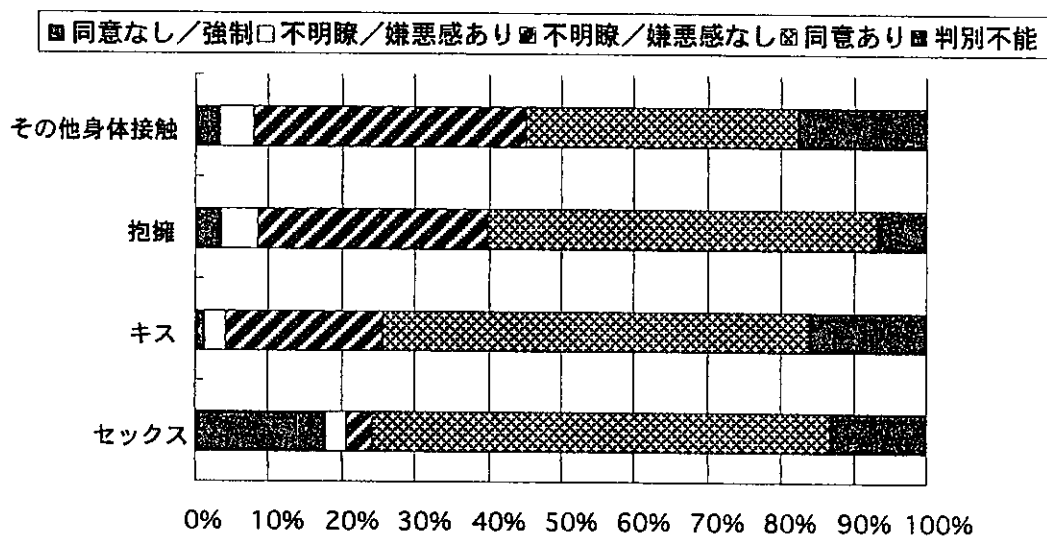


図3 行為*相互同意の有無

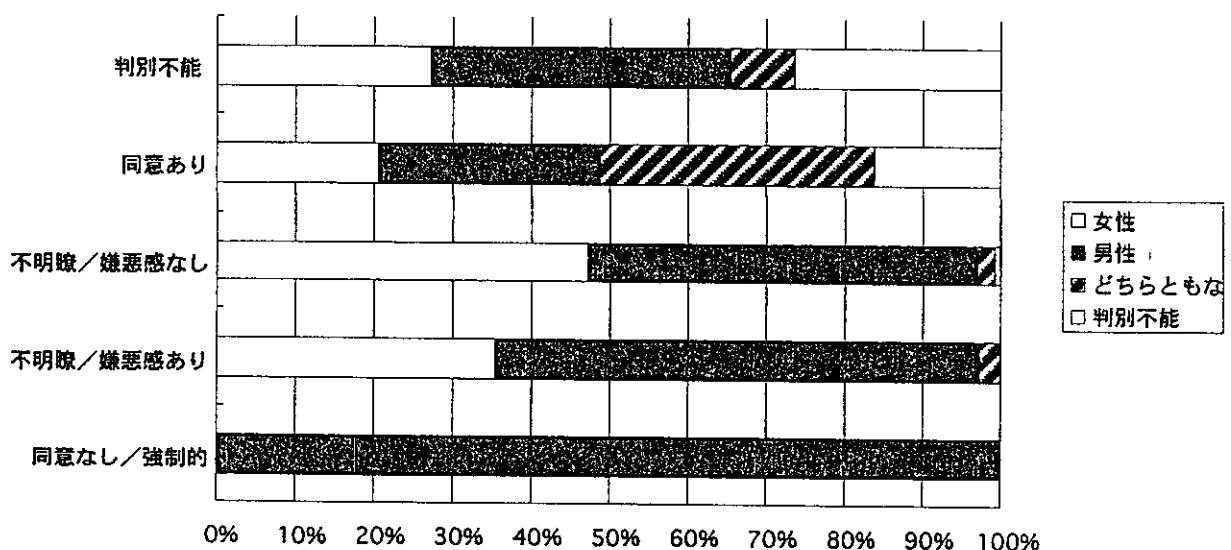


図4 行為を主導したジェンダー*相互同意の有無

これらの結果から、行為の種類にかかわらず描写された行為の多くについて「相互同意があった」とコードされていることかわかる。セックス・シーンに注目すると「相互同意があった」とみなされたのは62%であるが、これは必ずしも具体的な言語による確認作業がみられたことを意味するものではない。一方で、セックスについて「相互同意がない(性的強要)」は18%、「相互同意があったか否かは不明瞭たか、相手か嫌悪感を示した」は3%、「相互同意があったか否かは不明瞭たか、相手か嫌悪感を示さなかった」は4%という結果であった。

さらに、行為についての相互同意と行為を主導したエンターをクロスさせると、「相互同意がない(性的強要)」状況での行為主導者はすべて男性であった。また「相互同意があったか否かは不明瞭」の場合、「相手か嫌悪感を示した」のは男女比が62% vs 35%と男性が多く、「相手か嫌悪感を示さなかった」のは男女比が50% vs 47%とほぼ同であった(図4)。

D 考察

80年代末に「トレンディドラマ」という言葉が生まれ、ハフルかはしけた直後の90年代には、特に恋愛をテーマにしたドラマが増えたといわれる(渡辺, 1998)。今日、狭義の「トレンティドラマ」は消滅したと言われるが、高視聴率を誇るドラマが今日の「トレンド」をふんだんに盛り込み、また若者が求める「トレント」を提供し続けていることに変わりはない。

今回材料として取り上げたドラマには、「ファンションマシーン」、「ノーパンしゃぶしゃぶ」、「ランジェリーパフ」、「キャハクラ」、「ホテル」、「アダルトビデオ」、「援助

「ホテル」、「アダルトビデオ」、「援助交際」、「ラブホテル」、「テレクラ・伝言ダイヤル」、「インターネット(チャットやHサイトなど)」等の性風俗や、「ストーリー」、「ひきこもり」といった社会的注目の高まっている話題など、さまざまな「トレント」が登場する(2000)かドラマやアニメーションなどストーリー性のあるフィクション番組を対象に行った研究結果からは、調査対象となった年度平均で番組の38%になんらかの性描写が含まれ、その増加傾向が明らかであるという。今回の調査結果を踏まえれば、人気テレビドラマにおいて性情報が氾濫する中で、そういった情報は王石混交であり、特に性の健康管理に有益な情報や保健行動を促すロールモデルの提示は皆無に等しいといわざるを得ない。

1) 性感染症への関心の薄さ

1987年に厚生省が「エイズ元年」を宣言した10年後、高校生の異性間性交によるHIV感染を描いた『神様、もう少したけ』(フンテレビ, 1998年)が放送されたことをきっかけに、HIV抗体検査の受検者数が一時的に急増するという現象が報告された。女性や若者の間での性感染症の広がりか引き続き懸念される中、性感染症や感染症予防としてのコンドームなどについての描写は増えているのだろうか。今回の調査は年次推移を追うようにデザインされていないが、今回分析対象となったドラマにおいては、性感染症に関する情報や話題、あるいは予防手段としてのコンドームに関する描写頻度は、他の性に関する話題と比べても、極端に少ないことが明らかになった。

HIVを含む性感染症が台詞として具体的に登場するドラマは、25本中、『神様、もう少したけ』『伝説の教師』『てきちゃった結

婚』の 3 本のみである。一方、コンドームが登場するドラマは 25 本中、『恋のハカンス』、『GTO』、『神様、もう少しだけ』、『DAYS』、『伝説の教師』、『ストロベリー・オン・ザ・ショートケーキ』、『できちゃった結婚』の 7 本であった。

『神様、もう少しだけ』は HIV 感染した女子高校生の物語であり、このドラマを通じて HIV 感染症について知識を得た視聴者も少なくなかったはずである。しかし、保健メッセージに注目して見直してみると、保健行動の阻害要因もいくつか指摘できる。

このドラマは、コンドームをつけないで二人の男性とカジュアル・セックスをした結果、HIV に感染した経験がある主人公が、後に再び恋人とコンドームのないセックスをすることにより予定外の妊娠をするという展開をみせる。つまり、全編を通じて HIV 感染が重要なテーマでありながら、彼女がコンドームを使用したと思わせる場面は結局一度も登場しない。より正確には、実はこの女性は感染予防をしないセックスをすることについて「私、啓吾にうつしちゃうよ」「私、何も用意してきてないよ」と男性を制しているのだが、「俺か決める お前の全てを受け入れてやる」と言う男性に従った結果、妊娠するに至るのである（男性や子どもは感染しない）。

他の 2 作品においてもいえることだが、性感染症は話題として登場しながらも、その扱いは同じようにセックスがもたらす望まない結果としての妊娠の比ではなく、その影に隠れてしまっている印象が強い。

例えば、そのタイトルどおりカジュアル・セックスの結果として望まない妊娠をした女性とその相手が主人公である『できちゃった結婚』では、妊婦検診で訪れた先で、産婦人科に「パパもどうですか？」と性感染症の検査を勧められるという場面に登場する程度である。

ちなみに、このドラマには他にも「今日は大丈夫って（女性が）言ったから」と避妊しなかった結果、予定外（あるいは望まない）妊娠を心配するカノプルが登場する。友人の妊娠騒動に「まさかノーヘル（てセックスしたのか）？」と呆れるひとりの男性はコンドームの常用者として登場する。ただし、彼が誇らしげに発言したところによれば、「僕なんて（コンドーム）2 枚がポリシー」たという。（※注 コンドームの強度を増す目的で 2 枚重ねて使うことは、摩擦により破損しやすくするという逆効果につながる。）

破天荒な高校教師を主人公とした『伝説の教師』の第 5 話のタイトルは「愛のコンドーム!! 恋愛中毒生徒の妊娠!？」というもので、やはり女子高校生の妊娠騒動をめぐって話が展開していく。

このドラマでは、ある女子高校生の妊娠騒動をきっかけに「アメリカでも実施しているそうですか、わが校でも避妊教育のために」、「性病を患う女子高生が多いと聞きますし」ということで、校内コンドームを配布することになる。しかし、「学校はセックスは許すけど、妊娠は許さへんということか？」という主人公（教師）は、コンドーム配布の日に「俺、こんなんつけんほうが気持ちええと思うけどな」と発言して、男子生徒から大拍手を得てみたり、さらには、「セックスというのは子どもを作る大事な生殖活動や。それをこういうものかぶしてやるというのは、神への冒瀆。責任もってやるのがセックスちゃうんか!」と言って、コンドーム 1 個ずつに穴を開けて生徒に配布する。

こうしたドラマで妊娠に関連する話題が登場する頻度に比べて、HIV やその他性感染症の出現頻度がほとんど皆無に等しいという今回の調査結果は、実際の若者の関心を反映したものなのだろうか。実際、日本性教育協会（2000）の調査によれば、セックスをす

るときにエイスや性感染症か気になる女子は、高校生 22.6%，大学生 34.1%に対して、妊娠は、高校生 54.2%，大学生 68.4%であるという。しかし、映像か描き出す世界は、時代や社会の直接的・間接的反映であると同時に、行動モデルや判断基準としての影響力をもつことを忘れてはならないだろう。

2) 言語的コミュニケーションに関するロールモデルの欠如

図4に示したように、今回の調査結果では、目的描写における「相互同意なし」の状況で性的強要を行っていたのはすべて男性であった。「時に男として強引さも必要」(『お見合い結婚』)という台詞に象徴される旧態依然とした男性性役割観や性役割行動は随所に散見される。

寡黙さもまた、伝統的な男性役割観であり、ドラマに登場する男性は性に関する行動を起こす際に口数が少なくなるようである。言語的コミュニケーションが欠如すると、視聴する側には性的強要との区別がつきにくくなることも増える。例えば、男性の自宅で強引にノックに押し倒された女性編集者(『恋がしたい恋がしたい恋がしたい』)、自宅に尋ねてきた男性に畳に押し倒される元婚約者の女友達(『魔女の条件』)などの例である。こうした場合は「相互同意」が確認されないながらも、女性かそういった行為を許容していた印象を与えるものも少なくない。

さらに女性たちは押し倒されるばかりではない。『恋がしたい恋がしたい恋がしたい』では、オクテなひとり娘を心配した母親か「そんなに好きならね、押し倒しちゃえばいいの、あたしみたいに」と恋の指南をする場面も登場する。その後、この娘は罪の意識に駆られながらも男性の自宅に不法侵入を繰り返すようになり、卒句、泥酔状態で男性にカラむという醜態を演じるのである。醜態とは言うて

も、無邪気な可愛らしい男を描写し(全編を貫き)の出現していることは言うまでもない。

前述のように、「行為についての相互同意」については、行為の種類にかかわらず描写された行為の多くについて「相互同意があった」とコートされている。しかし、ラブシーンやセックスシーンにおいては、登場人物による明確な言語化かなされることなどほとんどないため、そのことが必ずしも具体的な言語による確認作業がみられたことを意味するものではない。加えて、セックスシーンには行為があったであろうことか示唆されるのみで、説明的な描写か省略されることも多いため、そこにコントームの使用かあったのか、双方がどういったセックスを望んでいたのか、途中で躊躇するようなことはなかったのか、どういった言語表現が効果的なのかなどについて、視聴者には想像することさえ困難なのである。

3) 他者依存的「結果オーライ」の展開

大胆なストーリー展開において「酒の力を借りてても」というわけでもないのたろうが、登場人物が無邪気に酔いつぶれる描写かみられることについても、保健行動に与える負の影響として指摘しておきたい。

女性の例としては、片思いを告白することさえできない相手の男性宅に泥酔状態で押しかけ、そこで一夜を過ごす初心な蜜柑(『恋がしたい恋がしたい恋がしたい』)、酔っ払って前後不覚になり、心密かに思いを寄せる男性に自宅へノットまで送ってもらう桜子(『やまとなてしこ』)などがある。男性の例としては、酔いつぶれて気がついた時にはラブホテルで、相手の女性とセックスしてしまったと勘違いする(させられる)欧介(『やまとなてしこ』)の例がある。

いずれも「酒の上での失敗談」としてコミカルに描かれ、幸いにも相手がそういった状

況を利用しない他者依存的「結果オーライ」の結末が用意されているのだが、飲酒行動に伴う現実的リスクが、トラマの世界では麻薬など他の薬物使用と比へて、過小評価され過ぎているのではないだろうか。

4) 愛のためなら命も捨てる

今回の調査では、不治の病に罹った女性が主人公である『ビューティフルライフ』や、HIV感染者の女性が主人公である『神様、もう少しだけ』のように、「死」を意識せざるをえない疾患と共に生きる女性が主人公であるトラマが含まれていたこともあって、「死」が恋愛至上主義ドラマにおける「究極の愛」を描く効果的な小道具として使われていた印象が強い。

『神様、もう少しだけ』の第2回放送分のタイトルは象徴的であり、「好き 貴方が命を奪ったとしても」というものであった。これは、感染告知を受けた女子高校生が、誰から感染したかを探し、結局は援助交際相手だったのだから、大好きな彼から感染したのであれば、それか同じ一晩限りの関係で終わっていたとしても、HIV感染によって命を奪われることになったとしても本望だということなのであろう。

さらにこの主人公は、HIV感染を知りつつコンドームを使用しないでセックスすることを望んだ男性と結ばれた結果、予定外の妊娠をし、二人の「愛の結晶」を出産した後に花嫁姿のまま教会で神に召されるのである。

『恋がしたい恋がしたい恋がしたい』では、あくまでも恋に臆病で、片思いの相手に告白することさえできない娘を心配する母が、末期ガンと闘う病床で、かつて不倫相手と「いっぱい愛し合った」末にシングルマザーになった自らの過去について語るのだが、「死ぬのなんて恐くない。怖いのは何もないことのほう」という台詞が象徴的である。

あるいは、『魔女の条件』では、教え子とのたった1回のセックスで女性主人公は妊娠をし、周囲の反対を押し切って出産を決意するものの、切迫産の結果、昏睡状態に陥る。恋愛至上主義においては、真実の愛を見出すこと以上に大切なテーマは見出せないということなのだろうか。

E 今後の展開

本研究では、「愛>命」のロマンチックラブ至上主義によって、性の保健行動の重要性は影が薄くなってしまっていることを指摘したが、従来のエイズ予防キャンペーンにおける「不特定多数とのセックスは危険」に対して「特定の愛情ある相手とのセックス」の消極的奨励というところにも、このロマンチック・ラブ至上主義が反映されているといえるのかもしれない。

現在、メディアを通して若者が曝されている情報の偏りが性行動と保健行動のギャップを固定化することを防ぐためにも、ロマンチック・ラブと性の保健行動が競合しない、コンドーム使用の肯定的イメージを伝える映像モデルの開発が必要とされる。

文献

- 岩男話美子『テレビドラマのメロセーン』勁草書房, 2000.
- 坂口早苗「テレビドラマにおける喫煙関連シーンの検討(II)」第60回日本公衆衛生学会総会 一般演題, 2001.
- 東京都幼稚園・小・中・高 心障性教育研究会編『1999年調査, 児童・性との性, 東京都幼・小・中・高・心障学級 養護学校の性意識・性行動に関する調査研究 平成11年』(学校図書, 1999)
- 日本性教育協会『青少年の性行動, わか国の中学, 高校, 大学生に関する第5回調査報告』(小学館, 2000)
- 村松泰子「テレビドラマのジェンダー表現と女性視聴者—70年代以降のドラマ視聴の変容」東大社会情報研究所『カルチュラル スタディーズとの対話』(新曜社, 1998a)
- 村松泰子「メディアがつくるジェンダー—日独の男女・家族像を読みとく—」(新曜社, 1998b)
- 渡辺久哲「高視聴率連続ドラマから見える時代の顔」新調査情報 *passingtime* 1998/1-2 no 009
- Piotrow, PT, Kincaid, DL, Hindin, MJ, Lettenmaier, CL, Kuseka, I, Silberman, T, Zinanga, A, Chikara, F, Adamchak, DJ, Mbizvo, MT, Lynn, W, Kumah, OM, & Kim, YM. Changing Mens Attitudes and Behavior — the Zimbabwe Male Motivation Project *Studies in Family Planning* 1992, 23 (6), 365-375.
- Sargent, JD., Tickle, JJ., Beach, ML, Dalton, MA, Ahrens, MB, Heatherton, TF. Brand appearances in contemporary cinema films and contribution to global marketing of cigarettes *The Lancet* 2001, 357: 29-32.
- Vaughan, PW, Rogers, EM, Singhal, A, & Swalehe, RM. Entertainment-Education and HIV/AIDS Prevention: A Field Experiment in Tanzania. *The Journal of Health Communication* 2000, 5(1). 81-100.

入力シー～

調査者名		調査日	
ドラマ名		第 話 () 分	

シーン	種類	A 行為の描写	B 会話	C 静止画像
	カウンター	～	～	

Aの種類	①セックス ②キス ③抱擁 ④それ以外の身体接触
Aのイニシアチブ	①男性 ②女性 ③どちらからともなく ④不明
Aについての同意	① 暴力的な強要（性犯罪を含める） ② 相互同意が不明瞭で、結果、相手が不快感・嫌悪感を示す ③ 相互同意は不明瞭だが、結果、相手が不快感・嫌悪感を示さない ④ 相互同意あり ⑤ 判別不能

BCの種類	①セックス ②キス ③抱擁 ④それ以外の身体接触 ⑤性風俗 () ⑥コンドーム・避妊手段 ⑦HIV/AIDS & その他性感染症 ⑧妊娠 ⑨中絶 ⑩出産 ⑪性犯罪 () ⑫その他 ()
-------	--

A	男性	名前 () 歳	両者の関係
		①高校生 ②専門学校生 ③大学生 ④大学院生 ⑤常勤職 ④非常勤職・派遣職員 ⑥アルバイト・パートタイマー ⑥無職	
	女性	名前 () 歳	
		①高校生 ②専門学校生 ③大学生 ④大学院生 ⑤常勤職 ④非常勤職・派遣職員 ⑥アルバイト・パートタイマー ⑥無職	
① 恋人同士 ② 婚姻関係 ③ 不倫関係（両方既婚） ④ 不倫関係（女性のみ既婚） ⑤ 不倫関係（男性のみ既婚） ⑥ 不倫関係（その他不明） ⑦ 近親関係 ⑧ 知人、友人 ⑨ 未知の間柄（さほど親しくない） ⑩ 金銭の授受を伴う関係 ⑪ 不明			

調査者の視点（コメント）	※ 上記の具体的状況と注目すべき点について、以下に説明してください。台詞は役名を明記し、一言一句、正確に記述してください。
--------------	---

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）
エイズに関する普及啓発における非政府組織(NGO)の活用に関する研究

分担研究報告書

若者向けセクシャルヘルス促進映像モデル パイロット版開発

分担研究者 兵藤智佳 ぶれいす東京

研究協力者 徐 淑了（新潟県立看護大学） 東 優子（ノートルダム清心女子大学）
生島 嗣（ぶれいす東京）

研究要旨 本研究プロジェクトでは、若者を対象とし、コントームを使用する動機を高めるための映像を開発した。ヒテオで提供するメッセージは、3年間の定量的研究よりあきらかになったエビデンスに基づいて決定した。シナリオは、研究班のメンバーによって劇団のシナリオ作家に依頼し、作成が行われた。映像は、実際の高校生が主演し、パイロット版として、ヒテオの形で制作された。撮影場所については、東京都の公園や一般のマンションを主として「高校生の日常」に配慮した方法を用いた。制作された映像については、研究班のメンバーによって編集作業が行われ、今後、実際の学校現場で使用するための改訂が行われる予定である。

A 目的

本プロジェクトでは、初年度、次年度の定量的な調査研究、及びテレビドラマ分析であきらかとなった結果を基礎として、「若者のコントーム使用の動機付けと動機の継続」を焦点とする映像モデルの開発を目的とした。対象は、一般の若者をターゲットとする。映像モデルは、中学校・高校を主とした学校現場で上映できるビデオとし、タイトルは、「Let's CONDOMing」とする。

B 方法（制作）

(1) メッセージの検討

本プロジェクトでは、まず、コントーム使用行動の阻害要因の定量的研究、及び、

既存のドラマ分析の結果をもとに、「映像を通して提供するメッセージ」を決定するための全体ミーティングを行った。ミーティングについては、最初の合宿を含めて2～3回は、研究班の班員のみが参加し、特に、介入に関わる「メインコンセプト」を明確にすることを目的とした。その後、メッセージが絞られた段階で、研究班のネットワークよりヒテオシナリオを作成する脚本家の選出が行われた。脚本家が決定した後は、脚本家を交えたミーティングを開催し、Condoming の概念、及び研究成果、具体的な対話のイメージを伝える話し合いを持った。最終的ミーティングの後、脚本家自身か、「脚本」の制作を行い、その内容については、研究班の班員によって加筆、修正が行われた。

(2) 映像の作成

ドラマの登場人物については、高校の演劇部と劇団員の学生9名、母役1名、父役1名によって構成されている。配役については、高校生の男女のカップルとその友人という構成であるが、ビデオ全体の「性的な多様性」に留意する形で、男性同性愛のカップルをキャラクターとして登場させた。撮影については、新宿区を中心に2日間の日程で行い、「高校生のリアリティ」に留意する形で、都内の「公園」や「家庭内」という設定で行った。また、それらの現実感を考慮する一方で、コントームを買うことが、「日常」として感じられることを目的に、「都内の若者向けコンドームショップ」と連携し、店内での購入シーンを取り入れている。

カメラ、照明に関しては、業者の委託で行った。

(3) 編集作業

撮影されたフィルムについては、研究班の班員によって編集作業が行われ、ドラマとして再構成された。

C 考察

エイズ対策における本プロジェクトの独創性と、期待される効果については以下に考察される。

(1) エビデンスに基づいたメッセージ

本プロジェクトで作成された映像では、前年度に実施された「コントーム使用を妨げる要因」に関する社会科学的なエビデンスに基づいたメッセージが検討されている。

特に、量的研究の結果は、女性は、「心理的な負担」、男性は、「快感等の競合する動機」というように阻害する要因が異なることをあきらかにしている。これは、性別によって提供すべきメッセージが異なり、ジェンダーに配慮した映像の重要性を確認するものである。本プロジェクトで開発された映像は、それら要因を十分に考慮したものとなっている。

(2) 現役高校生による実演

本プロジェクトの目的のひとつは、「新しいイメージ」を提供することであった。「既存のドラマ」の中では存在しない「オルタナティブなコントーム使用のイメージ」が高校生にとって「現実感」を持ち、共感を得るためには、できるだけ「自らの生活」に類似した設定が必要である。そこで、本プロジェクトでは、登場人物として、現役高校生にドラマの演技を依頼し、彼らの日常生活に存在する状況設定を行った。このように開発された映像は、登場人物を、自らのピアとして同化し、映像を解釈する可能性をもたらすものとして期待される。

(3) 具体的な対話のシーンの提供

ドラマにおいては、友人同士、カップルという「対話のシーン」が多用されている。これらは、「親密な関係にある際に、具体的などのような会話が成立しえるのか」という具体的なイメージを喚起することが目的である。これは、コントーム及び、コンドーム使用のイメージを変えるだけでなく、「言語的なコミュニケーションを促進する」という効果も同時にもたらす可能性が指摘できる。

1) 結語

本映像制作の目的は、あくまでコンテンツを「健康を守るアイテム」として使用することを促進するものであり、セックスそのものを促すものではない。しかしながら、映像の解釈によっては、「セックスの奨励」という誤解を招く可能性も存在する。そこでは、「性教育」など学校の現場において、「健康行動を促すビデオ」としての位置付けを常に確認することが必要であろう。

また 本ビデオは、性教育、エイズ教育等「学校現場での授業」を想定しており、そのためには、授業を行う教師向けガイドブック等のテキストセットの併用が前提となる。現在、こうしたセットの開発は計画の段階であり、今後、教師や高校生の積極的な視聴によるフィードバックを経た上で、さらなる開発が進められる予定である。

研究成果の刊行に関する一覧表

著者名	書籍名	編集者	発行者	発行地	発行年	ページ
ふれいす東京	Sexual Health ゲーム編	ふれいす東京	ふれいす東京	東京	2003	全体 32
発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年	
他上千寿子	若者の保健行動と予防介入に関する考察	エイズ学会誌	5巻1号	48-54	2003	
Ikegami	Gender and Sexuality in Popular Japanese Tv Dramas	Asian Congress of Sexology		62	2002	
Ikegami	Condoming Campaign Sexual Health Ppromotion for Youth in Japan	World Congress of Sexology		32	2003	
徐淑子	パートナーとの関係性の認知が短大 大学生女子のコンドーム使用行動に与える影響	エイズ学会誌	4巻4号	286	2002	
東優子	人気テレビドラマにおけるシェンダーとセクシュアリティに関する分析	エイズ学会誌	4巻4号	285	2002	
生島嗣	ゲイ ハイセクシュアルのコンドームに関する調査	エイズ学会誌	4巻4号	408	2002	
砂川秀樹	男性同性間性行為におけるコンドームの使用 不使用の要因に関する質的調査結果とヘテロセクシュアルの若年女子 男子調査との比較研究	エイズ学会誌	4巻4号	409	2002	

20020651

以降は雑誌/図書に掲載された論文となりますので、
P57の「研究成果の刊行に関する一覧表」をご参照ください。